



トーカロ株式会社

2020 年 3 月期第 2 四半期決算 会社説明会

2019 年 11 月 6 日

イベント概要

[企業名]	トーカロ株式会社		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2020 年 3 月期第 2 四半期決算 会社説明会		
[決算期]	2019 年第 2 四半期		
[日程]	2019 年 11 月 6 日		
[ページ数]	41		
[時間]	13:30 – 14:28 (合計：58 分、登壇：47 分、質疑応答：11 分)		
[開催場所]	103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-6-1 日経茅場町別館 B1 (日本証券アナリスト協会主催)		
[会場面積]	238 m ²		
[出席人数]	50 名		
[登壇者]	4 名		
	代表取締役社長	三船	法行 (以下、三船)
	常務取締役 管理本部長	樽見	哲男 (以下、樽見)
	取締役 管理副本部長	後藤	浩志 (以下、後藤)
	経営企画室長次長	細見	憲司 (以下、細見)

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

登壇

司会：それでは定刻でございますので、ただいまからトーカロ株式会社様の 2020 年 3 月期第 2 四半期決算説明会を開催いたします。最初に会社様からお迎えしてございます 4 名の方々をご紹介申し上げます。まず、代表取締役社長、三船法行様でございます。続きまして、常務取締役管理本部長、樽見哲男様でございます。続きまして、取締役管理副本部長、後藤浩志様でございます。もう一方でございます。経営企画室次長、細見憲司様でございます。本日は、この後三船社長様からご説明をいただきます。ご説明終了後に質疑応答の時間を設けておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。それでは、早速よろしくどうぞお願いします。

三船：こんにちは。トーカロ株式会社代表取締役社長の三船でございます。今日は IR ミーティングといたしますか、当社の 2020 年 3 月期第 2 四半期決算会社説明会にお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。また、日ごろは私どもの事業運営に関しましていろいろご高配をいただいております、この席でございますけれども感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

それでは早速ですが、2020 年 3 月期第 2 四半期の私どもの会社説明会を始めたいと思います。本日の内容はいつもどおりですけれども、一つは会社の概要。今日初めての方もおられますので説明して、それから第 2 四半期決算の概要と、それから今期 2020 年 3 月期連結業績予想ということで発表させていただいて、最後に今後どういう形で成長していくのかを簡単にご説明申し上げたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



会社概要



■ トーカロ株式会社

事業内容：溶射を中心とした表面改質加工

本 社：兵庫県神戸市

設 立：1951年7月

資本金：26億5,882万3千円



売上高：連結 395億58百万円（2019年3月期）

従業員数：連結 1,021名（2019年3月末現在）

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

4

まず会社の概要というところです。私どもは兵庫県神戸市に本社を設けておりまして、2年ほど前にポートアイランドに移りました。設立は1951年になります。2年前までは、阪神大震災で高速道路が倒れたところの近くにあったんですけども、ポーアイのほうに移りまして、コンピューターの京というのが今はなくなりましたけれども、富岳に変わっていつてますけれども、そちらのちょうど対面になるところに立地しております。売上高は、前期ですと連結で395億5,800万円。従業員数は1,000人をちょっと超えたところでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



当社の主な事業所

TOCALO



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

5

工場に関しましては本社は神戸市に、発祥の地も神戸ですけれども、神戸に置いておまして、あと工場は全国に6工場展開しております。北からいきますと東京工場が船橋にあります。それから、名古屋。本社の兵庫県に神戸工場と明石工場。それから、溶射技術開発研究所というものを明石に設けておまして、あとは水島と北九州。それから、大体私どもの溶射業というのは日本の鉄鋼業と一緒に栄えてきて、日本の鉄鋼業が世界第一の品質を確保することになるんですけれども、それに溶射というのが非常に寄与していったというところがございます。昔でいう太平洋ベルト地帯の製鉄所のあるところに地産地消といいますか、そういうところで日々通いながら鉄鋼業さんに育ててもらったということもございまして、このように立地しております。

また、最近、半導体のほうが非常にお客さんとして大事になってきたというか、アプリケーションが増えてきたものですから、東京エレクトロンさんがあります宮城にサービスセンターを設けております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

グループ会社



会社名	設立年月	本社	出資比率	主な事業分野
連結子会社				
日本コーティングセンター株式会社	1985年4月	神奈川県	100%	PVD 処理加工
東華隆 (広州) 表面改質技術有限公司	2005年4月	中国 広東省	70%	溶射 (鉄鋼他)
東賀隆 (昆山) 電子有限公司	2011年5月	中国 江蘇省	90%	溶射 (半導体・F P D)
漢泰国際電子股份有限公司	2011年6月	台湾 台南市	50%	溶射 (半導体・F P D)
TOCALO USA, Inc.	2015年11月	米国 CA 州	100%	溶射 (半導体他)
その他 (非連結、持分法非適用)				
		インドネシア1社、タイ1社		溶射 (鉄鋼他)



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

6

次に、グループ会社といいますか、子会社を中心に海外にも展開しておりまして、連結子会社としては五つあります。一つは日本にございまして、日本コーティングセンターというところで、私どもは溶射をメインとして生業をやっているのですけれども、溶射だけでは対応できない表面改質というのがどうしても出てくるものですから、PVD という物理蒸着で薄膜をコーティングする手法がございまして、それをメインにやっています。住友金属鉱山さんの子会社だったんですけれども、2004 年に私どもが譲り受けまして 100%の子会社としております。

それから、上三つの漢字で書いてあります中国・台湾系はすべて合併でございまして、漢泰と書いてハンタイと読むんですけれども、ここの台湾の企業さんと合併をやっておりまして、一つは広州、もう一つは昆山、それから台湾でやっております、おのおのこの私どものパーセンテージの出資比率で、鉄鋼関係、それから半導体関係のメンテナンスサービスを展開しております。

それから、半導体のメンテナンスサービスをするために 2015 年にアメリカに工場を作るんですけれども、環境規制とかそういうものをやっとならして、最近動きだしたかなというところがございます。

サポート

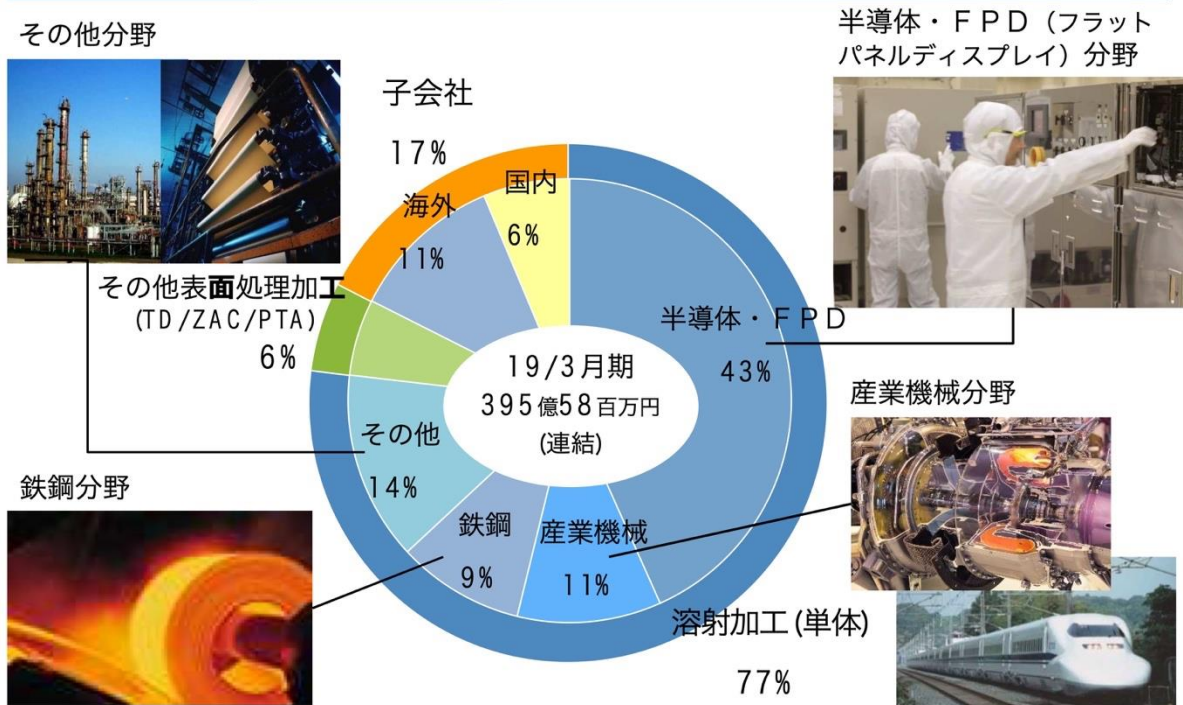
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



それから、連結子会社ではありませんけれども、非連結と持分法非適用で、インドネシアに 100% の非連結の企業をやっと作ったところです。それから、タイにも日本のナイス株式会社さんという溶接の関係の仕事をされているところがあるんですけども、そこと一緒にやっています。これはどちらかというとい日系の鉄鋼業が現地に進出しているので、そのメンテナンスというのが大きな仕事でございます。

さまざまな産業界に広がる事業領域

TOCALO



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

それから、私どもの事業領域というか、いろいろなところと付き合いをしているんですけども、まず先ほど申しました子会社に関しましては、オレンジの部分で 17% が子会社の売上になります。国内は先ほどの PVD、日本コーティングセンターの売上、海外、アメリカはほとんどありませんので 3 社、中国と台湾が 11% です。あとはすべて溶射加工単体と、それからその他表面処理。ここはトーカロ本体でやっているところございまして、トーカロ本体としますと 6% と 77% です。83% はトーカロ本体の売上です。あと 17% が子会社になるという分類です。

溶射加工の中身を見ますと、一番多いのが、去年の 395 億の売上を上げたんですけど、去年は特に上期が半導体のピークというか、非常に忙しい時期に当たりまして、その関係もあって 43%、その前の年は 38 か 39 くらいだったんですけど、一気に 4~5% 上がったということで、こ

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

れが半導体・FPDの製造装置部材に対する溶射で、今でいうと4割以上を占めているところになります。

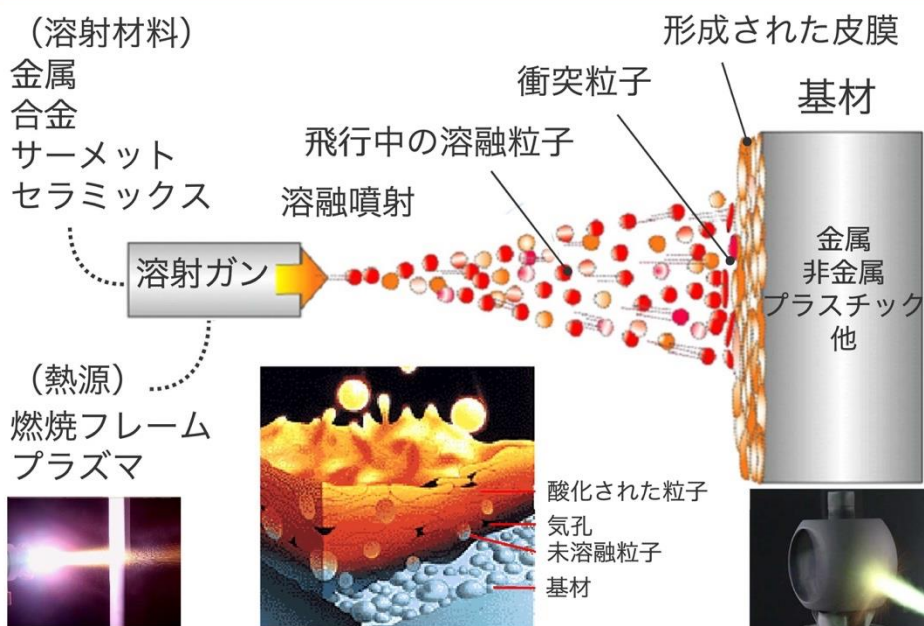
それから、昨年でいいますとエネルギー関係、ガスタービンですとかボイラーとかそういうインフラ関係、それから新幹線のベアリングですとか、そういうところのものでエンジニアリング部門の産業機械が11%。それから、昔からあります鉄鋼。それから、その他。石油化学とか紙パとか、もろもろのほかの商品に関係するものが14%でございます。

あと、子会社の中で国内については、溶射ではありませんのでPVDの世界。それから、その他表面加工というところも、熱処理でありましたり、化学緻密化処理であったり溶接であったりという、溶射ではないところをやっておりまして、この12%は溶射ではありません。海外の11%というのはほとんど溶射ですので、この中でいいますと、溶射は88%で私どもの事業の中心でございます。そういう区分けになっております。

溶射とは

TOCALO

溶射の原理（イメージ）



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

8

溶射というのはなかなか世の中に認知されておらず、どうしても表面を改質する部分においては、すぐにめっきであるとか溶接であるとか、そういうところが皆さん頭に浮かんで、エンジニアの方も大体熱処理とかが浮かぶんですけども。溶射というのは認知度がなかなか低くて、知っておられる方には非常に評価をさせていただいているんですけども、そういう意味では認知度を上げるの

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

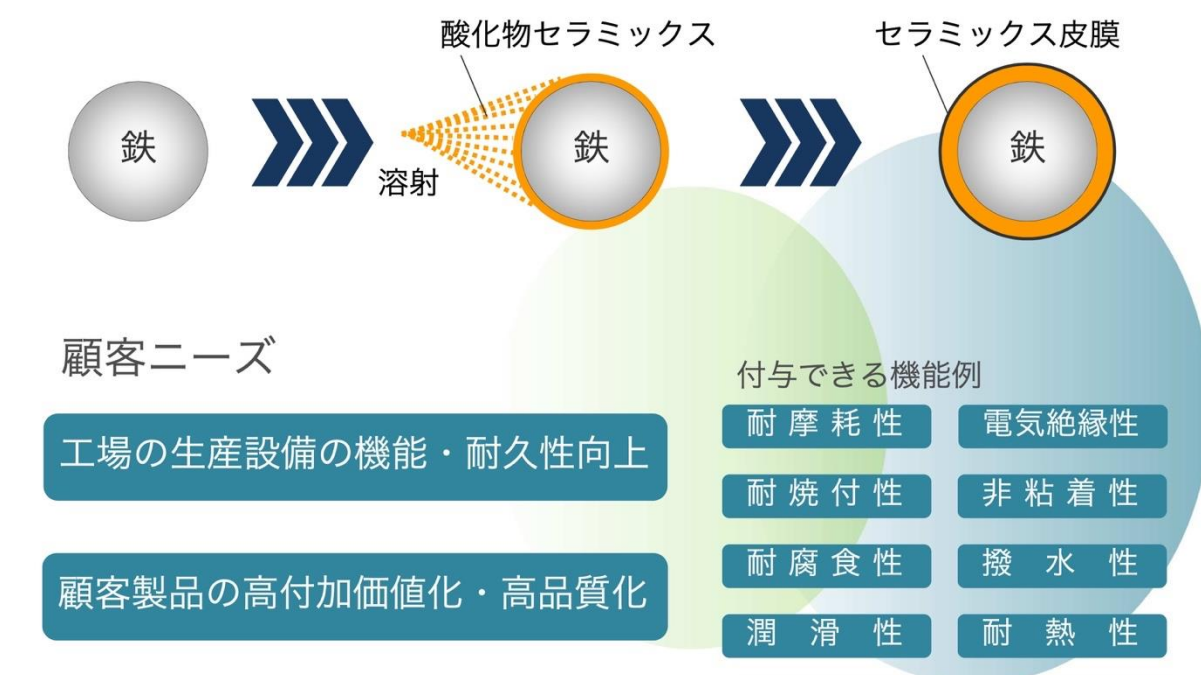
SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

が私どもの役目かなというところもあるので、若干説明します。非常に簡単です。漢字で書いていますが、溶かして射るということで、溶かすものが溶射材料といいまして、熱源は例えばアセチレンガスでありますとか、プロパンガスであるとか、プラズマといって、ガスを流して電気を通電することによってイオン化させて、プラズマ化させるというか、そういう熱源を持ちまして、材料を溶かして、あとは吹きつけると、表面にコーティングがなされるという非常に簡単な機構からなっています。

ただし、非常にシンプルなんですけれども、それをいかにお客さんの環境にマッチングするような皮膜構成とか性能を出すとか、気孔率や表面の粗さをどうするかとか、そういうところが私どもの事業のネタというかみそになっています。そのへんを制御することが私どもの事業を拡大していくという形になっております。

表面改質とは

TOCALO



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

9

それから、表面改質というのを一般的によく言うんですけれども、先ほどもちょっと言いましたけれども、めっきであるとか溶接、PVD、CVD、要は素材と違うものを表面に付与して新しい機能を出そうと。そういうのを表面改質と呼んでいるんですけれども、私どもは先ほど言いましたように88%はこの溶射というところでやっています。例えば鉄の部品があると、その表面に酸化物セラミックスをつけますと、こういうふうなものができる。中は鉄で外側だけがセラミックス皮膜と

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

いうのができるんですけれども、セラミックス皮膜は例えば耐摩耗性であるとか、電気絶縁性であるとか、耐腐食性であるとか潤滑性という性能を持っていますので、それで鉄と違う機能を付与すると。それで部品を作っていくんですけれども、顧客のニーズ的にはどういうものがあるかといいますと、二つに分かれております。

一つはお客様の工場内で、要は生産をされている工場で使われている部材があります。例えば鉄鋼ですと、亜鉛めっきの鋼板のロールですと、亜鉛めっきのラインがありまして、ロールが例えば100本、200本という形で板が流れてくるんですけれども、一番大切なのは亜鉛の浴中にどぶ漬けをするものですから、要はどぶ漬けですので亜鉛が溶けた世界です。亜鉛は480℃ぐらいで溶けるんですけれども、その中にロールが入っていきまして持ち上げていきます。そのロールは鉄でできていまして、鉄でできていると表面がその亜鉛に浸食されてがたがたになります。がたがたになると、ロール表面のがたがたが板に転写されて板ががたがたに、要は穴が開きます。それを防ぐのにコーティング、溶射をやりますとそれがなくなる。それが30日ぐらい続くということで世界的に脚光を浴びていまして、今の世界のCGL、Continuous Galvanizing Lineについてはたぶん8割ぐらいは溶射がされているのではないかと思います。そういう世界です。

もう一つは半導体でいいますと、半導体製造装置を例えば日本から輸出するときに、特に私どもがやっているのはエッチングの世界ですけれども、半導体のエッチングをするのに非常に細いラインを引くところで、配線を彫っていくんですけれども、彫るためにプラズマのガスを使います。フッ素ガスとかクロール系のガスを使います。そうすると、チャンバー内がアルミでできているものですから、ガスによってやられるものですから、それがパーティクルとなって半導体ができないと。それを守るために、アルミ素材の内側にコーティングをやりまして、プラズマのガスから守ると。そういうことを付与する。そういうことがあってはじめて半導体製造装置ができていまして、それを付与したやつを海外に輸出したり、例えば日本の大手メーカーさんに出荷すると。そういう、要はお客様の付加価値を上げるための製品に使われているのか、それとも製造装置に使われているのか、これが大きな私どものニーズになってきます。

簡単に、どんなところで提供されているか。例えばスマホですと、スマホというのはいろいろな部品からなっているんですけれども、もちろんさっき言った半導体の部品。半導体の部品というのは、先ほどチャンバーと言いましたが、この赤い部分がチャンバーでして、ステージもあるんですけれども、ウエハが置かれるステージというのは非常に精度よく置かれるわけなんですけれども、それを留めるのに静電気を使うんですね。静電気を発生させるのにコーティングを使うという世界もありまして、この中で使われています。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

また後で説明しますが、リチウムバッテリーの製造ラインでも使われています。それから、樹脂系です。それから液晶ですと、これも表面はガラスですけれども、液晶のガラスは0.6ミリぐらいの厚さのガラスなんですけれども、それを作るのに溶けた錫の上にガラスを乗せまして、それを引っ張って焼鈍させていくんですけれども、そういうラインはロールが50本も60本もあるようなラインでして、そのロールにガラスと反応防止のために、薄いものですから、セラミックスのコーティングがされています。そういうところで使われます。

それから、銅箔を作るときに析出させるためのロールとか、例えば液晶はどちらかというと半導体と一緒にですね。静電チャックといいますか、下の素材に静電気を発生させるためのコーティングをやっています。大きいものになりますと3メートル×3メートルぐらいになります。

あとは、セラミックコンデンサとかよく言いますが、これは例えば300個ほど入っているんですけれども、米粒より小さいようなセラミックコンデンサですけれども、これはチタン酸バリウムを中心とした材料を焼くんですけれども、焼くときにどうしてもトレイと反応するものですから、そのトレイにあるコーティングをやりまして反応防止をやっています。

そういうところで、スマホをアッセンブリーするための部品、キーパーツというのがいろいろありまして、そのキーパーツを作るのに溶射というのが非常に使われているということをご紹介した次第です。これはたぶんお手元の資料にはないと思います。ウェブサイトから説明のために抜いてきましたので、大変申し訳ありません。

次もお手元にはないかと思うんですけれども、著作権の関係で、どこにあるか分かりませんので、説明のための資料として考えていただいたら結構です。今最もホットな話題というか、吉野彰さんがノーベル賞をとられましたので、リチウムバッテリーのところで、日本に開発者がおられるということもありまして、リチウムバッテリーというのは日本でもともと開発されたのではないかと思います。そのリチウムバッテリーを作るのにもいろいろな製造装置が使われています。リチウムバッテリーというのは簡単な仕組みで、正極と負極の間にセパレーターがありまして、その間をリチウムイオンが行ったり来たりするだけの話です。ただ、その作り方は非常に制御されたものでありまして、正極材にコバルト酸リチウムとかニッケル酸リチウムとかそういうのが使われるんですけれども、それを調整するためのトレイがございまして、これも不純物を非常に嫌うものですから、トレイにコーティングをやって焼成炉にかけると。

それから、焼成炉用の搬送用のロールがありまして、それに強度を持たせるためにコーティングをするとか、セパレーターもあります。

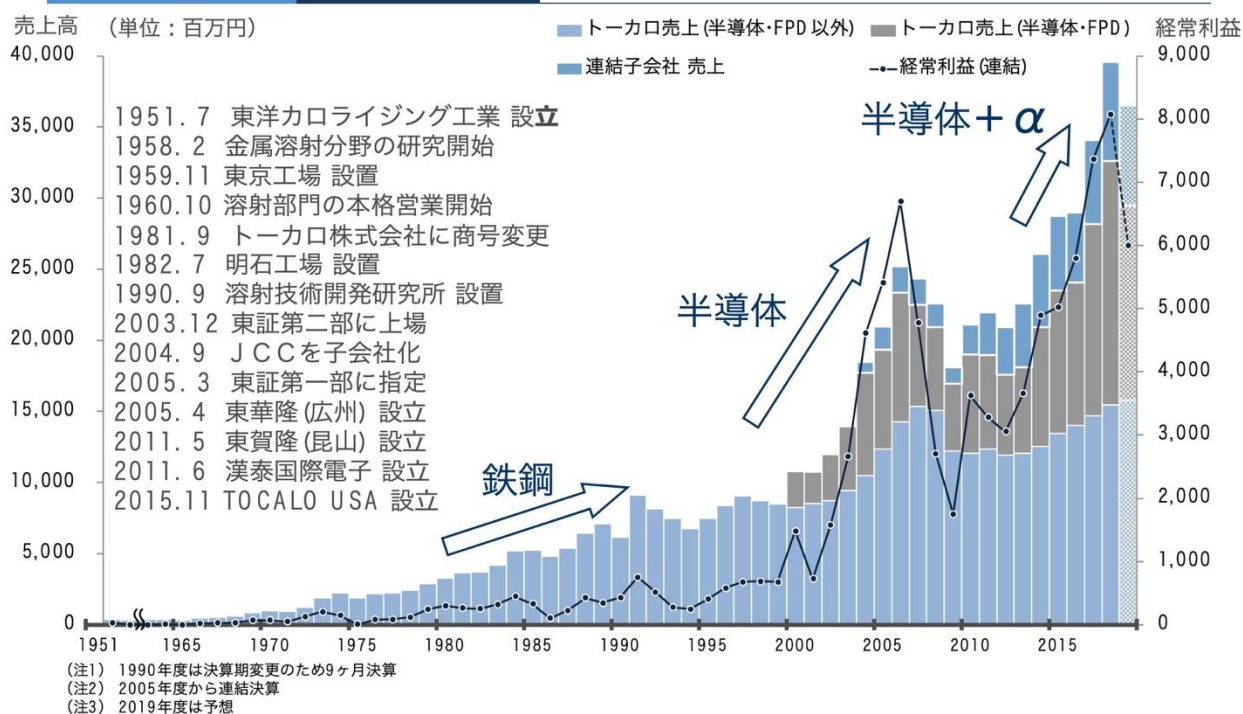
サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

あとは、アルミとか銅とか、そういうところの箔に、これは集電のために箔が必要なんですけれども、そういう箔を作るのにロールに使われています。要は、傷ついたら品質上 NG ですので、それをなくすためにこういう製造装置には溶射のロールが使われます。

それから、大事なところは製造するラインがあるんですけど、コーター台とかプレスロールとかは、最終的な厚みの制御とか電磁の品質を決めるところなんですけれども、そのプレスロールとかコーターの台にも溶射が適用されて、長寿命で均質性を持たせた形で使われています。ただ、半導体製造装置みたいに莫大な需要があるわけではなくて、そういうところが今からだんだん増えてくるのかなというところでございます。

沿革・業績の推移 (1951年度～)



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

12

話はもとに戻りまして、当社の沿革というか歴史を振り返ってみたいと思います。1951年に神戸で創業しまして、昔は東洋カロライジング工業と言っていたんですけども、カロライズという表面処理がありまして、それをやっていたんですけども、拡散熱処理みたいな形なんですけど、最初に申しましたように、主に鉄鋼業とともに最初は成長してきました、バブルぐらいまでは大体鉄鋼業とともに成長してきました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



半導体が始まるのは2000年ぐらいで、その頃、あるところから買収を仕掛けられまして、私どもはMBOというのを仕掛けるんですけれども、それがちょうど2000年ごろです。また、1995年ぐらいから半導体の研究開発をやっておりまして、それが事業化できたのも2000年ごろです。それから半導体の需要が一気に増えまして、そのときにMBOを成功させるんですけど、一度店頭公開した企業が一回下ろして東証に上場するという非常に画期的な出来事だったらしいんですけども、半導体の需要に神風が吹いたと皆さん言われていましたけれども、そういう世界がございました。

それから、2007年まで一気に上がるんですけども、FPDというか液晶の製造装置も含めて非常に需要が多くなって、目が回るような忙しさを迎えるんですけども、一応ここでピークを迎え、その後リーマンショックが2008年にあってドンと落ちました。それでも、一応利益は確保しながら、それからまた今度は一般部門というか、半導体以外の部門もそれなりに、この青い部分ですけども、上がりながら、灰色の部分が半導体・FPDの部分です。それから、一番上が連結子会社。子会社もいろいろ立ち上がりまして、子会社の業績もアップしました。それから、半導体ももちろん上がってきました。一般のところも少しずつ伸びてきました。ということで、現在の成績、昨年は最高益を上げる形になりました。ただ、今年はちょっと半導体の景気が悪いものですから落ち込んでいます。

第2四半期連結決算 実績概要



当第2四半期連結決算のハイライト



(1) 売上・利益ともに期初予想を上回る

半導体・FPD分野の減収幅は期初予想どおり

産業機械分野やその他分野が好調に推移

(特にエネルギー・石油化学・紙関連)



(2) 国内は減収減益、海外は増収増益

台湾子会社は減収となるも、

中国子会社は増収基調で推移

(特に鉄鋼及び石油・ガス分野が好調を維持)

サポート

日本

03-4405-3160

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptsasia.com

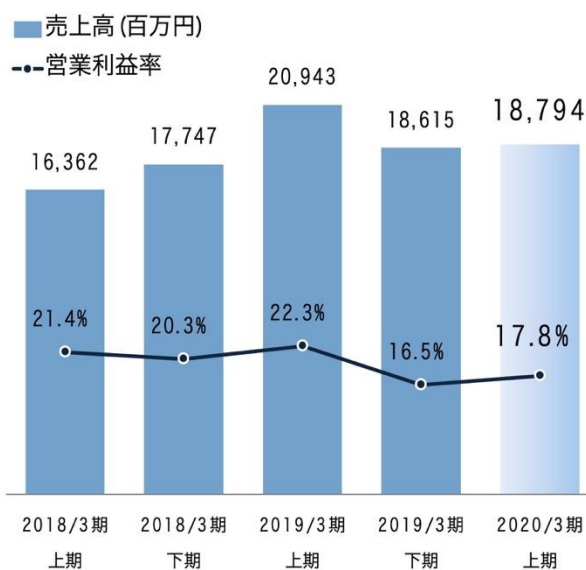
それでは、第2四半期の連結決算の概要をご説明したいと思います。上期をまとめますと、売上・利益ともに期初予想よりはちょっとよかった。期初予想は半導体・FPD分野は減収するというところで、かなり低めに置いていたんですけども、産業機械分野とか、特にボイラー、ガスタービンを中心としたエネルギーの関係、それから石油化学、製紙の関係。特に家庭紙の関係が非常に好調だったものですから、売上で13億、利益で5億ほどプラスになったというところですよ。

2番目は、国内は減収減益だったんですけども、海外は増収増益というところで、台湾の子会社は特にFPDの、半導体よりもどちらかというと液晶の製造装置関係の動きがまだありますので、半導体も伸びたんですけども、それでカバーできずに、若干減収となりました。中国の子会社は特に鉄鋼、オイル＆ガスでもですけども、日本にはないアプリケーションでバルブとかそういうものも含めて非常に好調で、海外は増収増益でした。

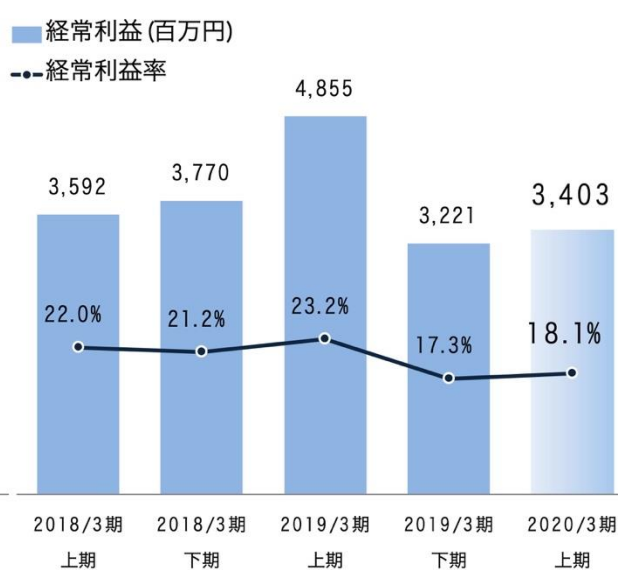
第2四半期連結決算 実績概要



売上高と営業利益率



経常利益と経常利益率



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

15

それを図で表していきますと、まずこれは半期ごとのグラフです。2018年から半期ごとに表していきまして、やはり2019年、昨年の上期が一番業績がよくて今に至っています。期初の予定よりは、売上187億ですけども、175億としていましたので、それよりは上がったということ。それから、利益のほうも27億としていましたので、34億となって18.1%というところまで来ました。もともと経常利益を15%ちょいぐらいに置いていましたので、それに比べたら業績的には減収減

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



益幅が少し縮小したということです。

第2四半期連結決算 実績概要



(百万円)	2019/3期 実績	2Q 構成比	2020/3期 実績	2Q 構成比	前年同期比増減 金額	率
売上高	20,943	100.0%	18,794	100.0%	△ 2,148	-10.3%
溶射加工 (単体)	16,471	78.7%	14,097	75.0%	△ 2,374	-14.4%
半導体・FPD	9,390	44.8%	6,764	36.0%	△ 2,626	-28.0%
産業機械	2,066	9.9%	2,474	13.2%	407	19.7%
鉄鋼	1,787	8.5%	1,972	10.5%	184	10.3%
その他	3,226	15.5%	2,886	15.3%	△ 340	-10.5%
その他表面処理加工	1,006	4.7%	1,161	6.2%	155	15.4%
国内子会社	1,249	6.0%	1,197	6.4%	△ 52	-4.2%
海外子会社	2,215	10.6%	2,337	12.4%	121	5.5%
営業利益	4,673	22.3%	3,348	17.8%	△ 1,325	-28.4%
経常利益	4,855	23.2%	3,403	18.1%	△ 1,452	-29.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,216	15.4%	2,148	11.4%	△ 1,067	-33.2%

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

16

それから、これを表に書いただけの話ですけれども、前期の上期は先ほど申しましたように、成績的には最高益を上げたものですから、それに比べたらやはり売上高で21億のマイナスと。経常利益的には14億のマイナスで29.9%のマイナスというところまで来ているんですけれども、確かに減収減益が大きくなったんですけれども、半導体はそこそこ予定どおりで、あとのそれ以外の産業機械とか鉄鋼とか紙パとかエネルギーの関係を含めたところがかかなり持ち直してきたところもございます。その他というのは、昨年スポットでプラントの関係が8億ほどあったので、それを除くとプラスになっているかと思うんですけれども、そういう意味ではこの部分が頑張ったおかげで半導体の部分をちょっとカバーしてくれたということでございます。

ただ、国内の子会社は、JCCの関係は自動車関係が多いものですから、特に中国向けの自動車部品を扱っているところが、かなり日本の景気が悪くて、そこの付き合いの部分が大幅下がってきた

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ことで売上が減っています。

セグメント情報（前年同期比）

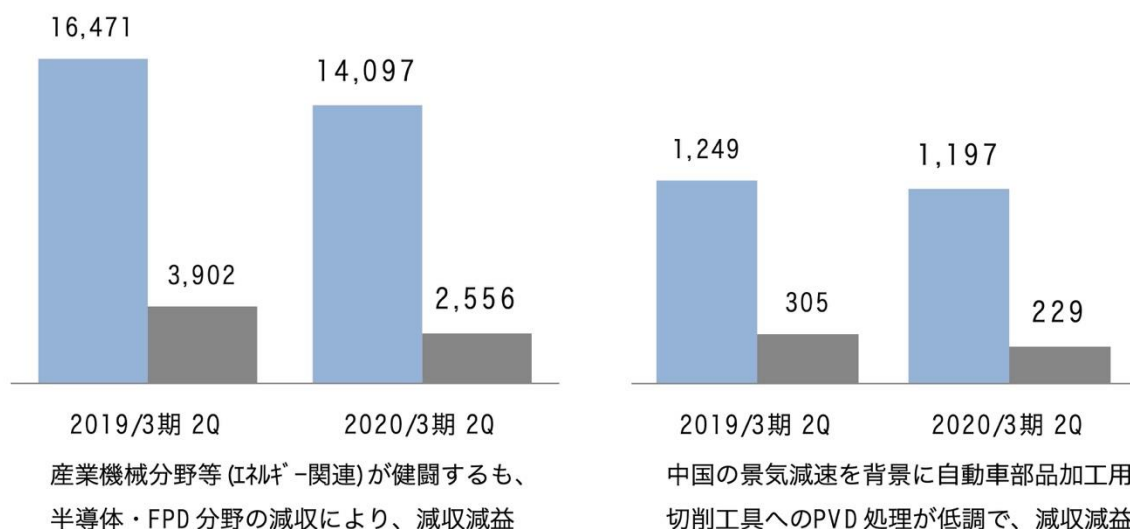


溶射加工（単体）

国内子会社

■ 売上高 (百万円)

■ セグメント利益 (百万円)



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

17

それから、前年同期比としてセグメント別に比較してみますと、溶射加工（単体）、要はトーカロでやっている溶射というところですが、何回も説明していますが、産業機械分野、特にエネルギー関連が健闘して、鉄鋼も紙パも含めて健闘しているものの、やはり半導体・FPD 分野の減収によって減収減益になったということです。

あと、国内子会社、先ほど申しましたが JCC、日本コーティングセンターのことですが、中国の景気減速を背景に、自動車部品加工用の切削工具への PVD 処理が低調になりまして、減収減益をせざるを得なかったということです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント情報（前年同期比）

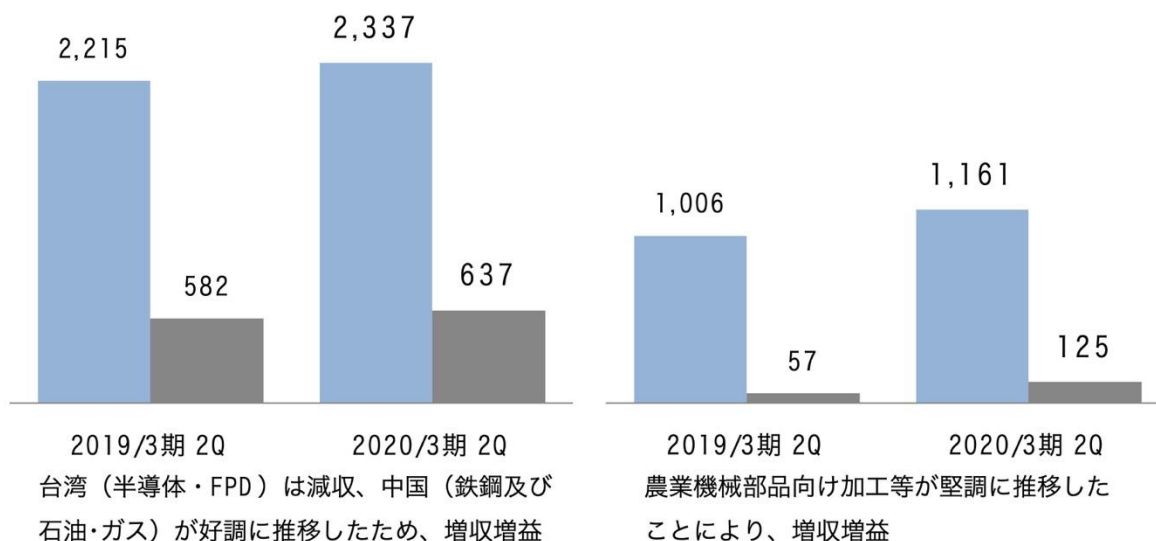


海外子会社

その他表面処理加工

■ 売上高 (百万円)

■ セグメント利益 (百万円)



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

18

あともう二つありまして、その他と海外子会社。海外子会社は先ほどから言っていますように非常に好調です。台湾の若干の減収はあるんですけども、中国、特に鉄鋼、オイル & ガスの関係が非常によかったために増収増益を図れました。それから、その他表面処理加工。これはトーカロでやっています特殊肉盛り処理とか化学緻密化処理とか、新しいアプリケーションになるんですけども、農業機械部品の関係が好調になったことでプラスに作用し、増収増益を図れました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント情報（前年同期比）



(百万円)	2019/3期 2Q		2020/3期 2Q		前年同期比増減			
					売上高		セグメント利益	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	金額	率	金額	率
溶射加工(単体)	16,471	3,902	14,097	2,556	△ 2,374	-14.4%	△ 1,345	-34.5%
国内子会社	1,249	305	1,197	229	△ 52	-4.2%	△ 76	-25.0%
海外子会社	2,215	582	2,337	637	121	5.5%	55	9.5%
その他表面処理加工	1,006	57	1,161	125	155	15.4%	67	117.2%
合計	20,943	4,848	18,794	3,548	△ 2,148	-10.3%	△ 1,299	-26.8%

(注) セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

19

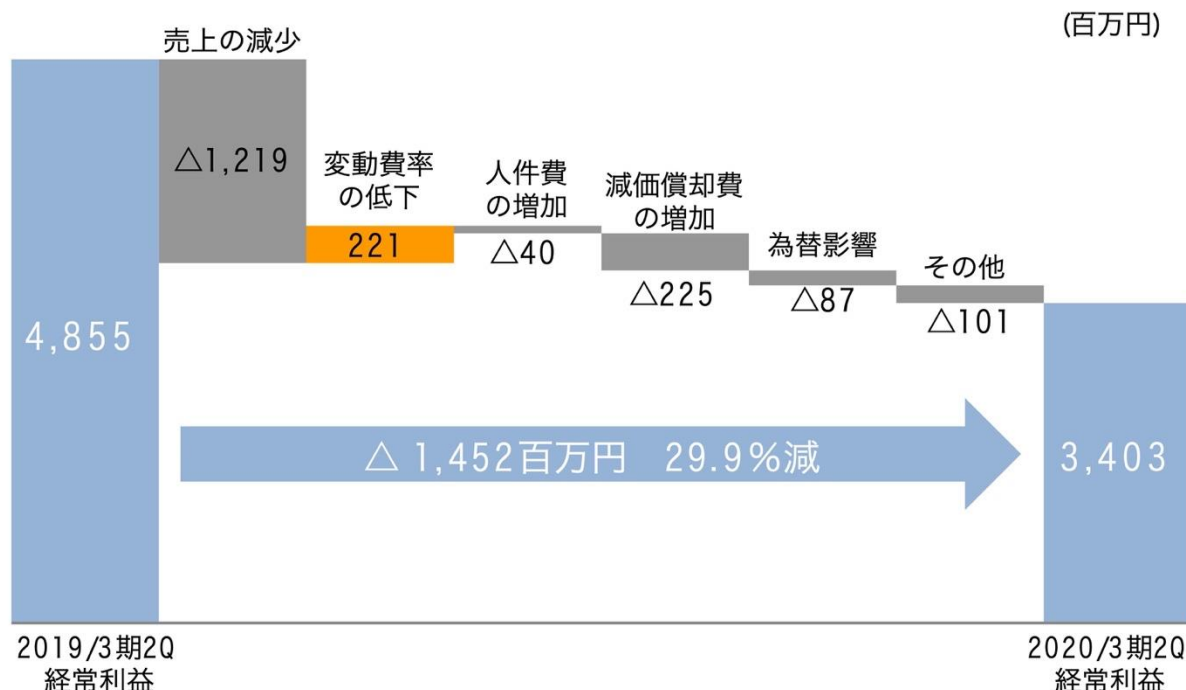
これは先ほどのグラフを表にした形になります。一つは海外子会社の頑張りが効いてきているかなと。国内でも半導体以外のところの頑張りはあるんですけども、あとは海外子会社の頑張りと、それからその他の部分での頑張りがあったというところです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



前年同期比 経常利益 増減要因分析



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

20

昨年上期との比較で経常利益の要因分析をしますと、昨年は48億5,500万円の儲けから34億まで14億5,200万円減りました。30%弱の減益になっているんですけども、一番大きいのは売上の減少です。ただ、変動費率をかなり低下させまして、限界利益を向上させたこともありますので、その分はプラスになっています。人件費は、昨年上期に増産をかけまして人をかなり入れ、昨年も人件費がかなり上がったんですけども、今後ある程度のところで立ち上がるだろうということで、できるだけ人を確保しつつ進めていることと、働き方改革も含めて残業規制もありますので、そのへんをかなり制限しているところもございます。人件費はちょっと増加。特に、海外での人件費が増加したかなというところがございます。あと、昨年までの3年間で180億円ぐらいの投資をしていますので、その減価償却費が効いてきているようで、34億になったというところですね。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



財政状態



(百万円)	2019/3期		2020/3期
	2 Q末	4 Q末	2 Q末
総資産	55,775	57,278	56,596
自己資本	36,344	37,559	38,663
自己資本比率	65.2%	65.6%	68.3%
有利子負債残高	3,522	4,478	5,860

- ・ 総資産は前期末比 6 億82百万円の減少（流動資産の減少 8 億34百万円）
- ・ 自己資本比率は前期末比 2.7ポイント上昇の68.3%
- ・ 有利子負債は前期末比 13億円の増加（4月に21億円の長期借入を実施）

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

21

あと、財政状況ですけれども、総資産につきましては、前期比 6 億 8,200 万円の減少と。特に流動資産の減少があって、前期の 3 月 31 日が休日の関係で現預金を持ち越した状態になったということで、そのこともありまして自己資本比率がやや上がっています。有利子負債については、4 月に 21 億円の 7 年の長期借入れを行いまして現金を増やし、支払部分に充てることで、その分のキャッシュが、後で説明しますけれども 117 億。有利子負債が 58 億になっていますので、手持ちのキ

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



キャッシュが 60 億ぐらいという状況です。

キャッシュ・フローの状況



(百万円)	2019/3期 2 Q	2020/3期 2 Q
営業キャッシュ・フロー	4,390	2,025
投資キャッシュ・フロー	△ 3,415	△ 2,771
財務キャッシュ・フロー	6	361
現金及び現金同等物の期末残高	9,738	11,781

・当 2 Q のフリーキャッシュ・フロー（営業 C F + 投資 C F）はマイナスとなるも特に問題となる状況ではないと判断

・投資 C F / 有形固定資産の取得 前期：△33 億円 当期：△24 億円

・財務 C F / 長期借入による収入 前期：+15 億円 当期：+21 億円

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

22

キャッシュ・フローの状況ですけれども、第 2 クォーターのフリーキャッシュ・フローはマイナスになっているんですけれども、これは一応予定した状況でございまして、問題となる状況ではないと判断しています。あと、投資キャッシュ・フローが投資したことによって増えています。それが

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



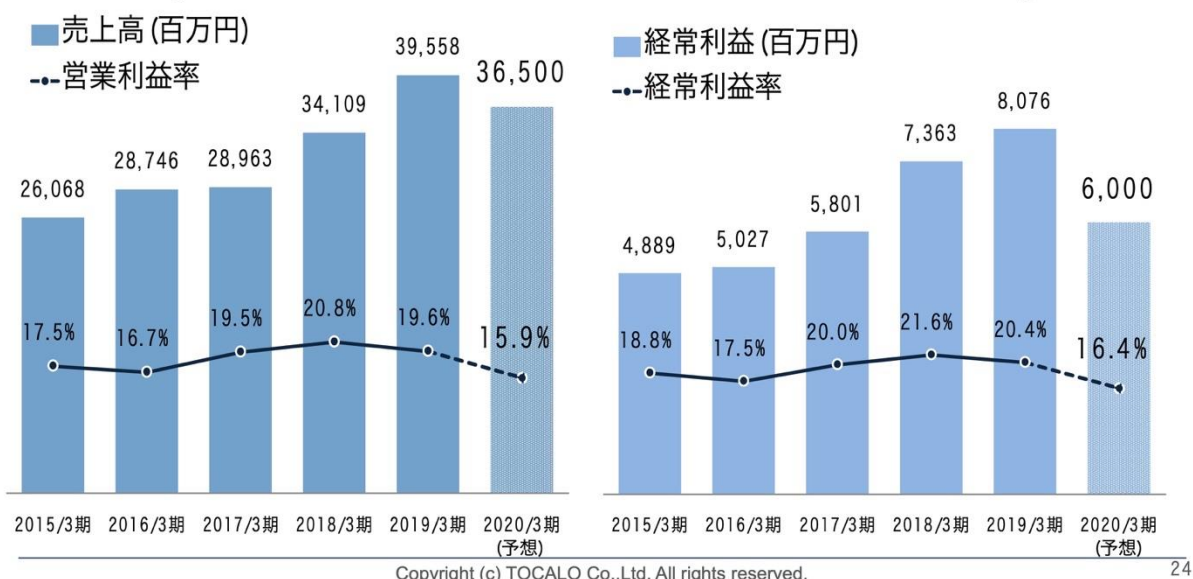
ら、財務に関しましては借入れを行っていますので、その分が 21 億円になったということです。

2020年3月期 連結業績予想の概要



通期予想を修正：減収減益幅 縮小

売上高 前期比 修正前 Δ 9.0% $\Rightarrow$ 修正後 Δ 7.7%
 経常利益 前期比 修正前 Δ 31.9% $\Rightarrow$ 修正後 Δ 25.7%



それでは、2020年3月期の連結業績予想に入りたいと思います。なかなか予想するのはこの時期は非常に難しいところがございます。ただ、先月10月31日に、通期の予想を上期がよかった分だけちょっとだけ上げています。下期の予算に関しましては、もともと3月に立てました予定とあまり変わらないんですけども、上期がちょっとプラスになった分だけ上げさせていただいています。ですから、ここはもともと360億だったんですけども、365億という形の売上にして、55億の利益を60億にしました。経常利益率としては、16.4%になります。もともと15%ちょっとで、目標は15%から20%あたりを予定しているんですけども、できるだけちょっとずつ上げていこうということで、60億を目指して頑張ります。

サポート

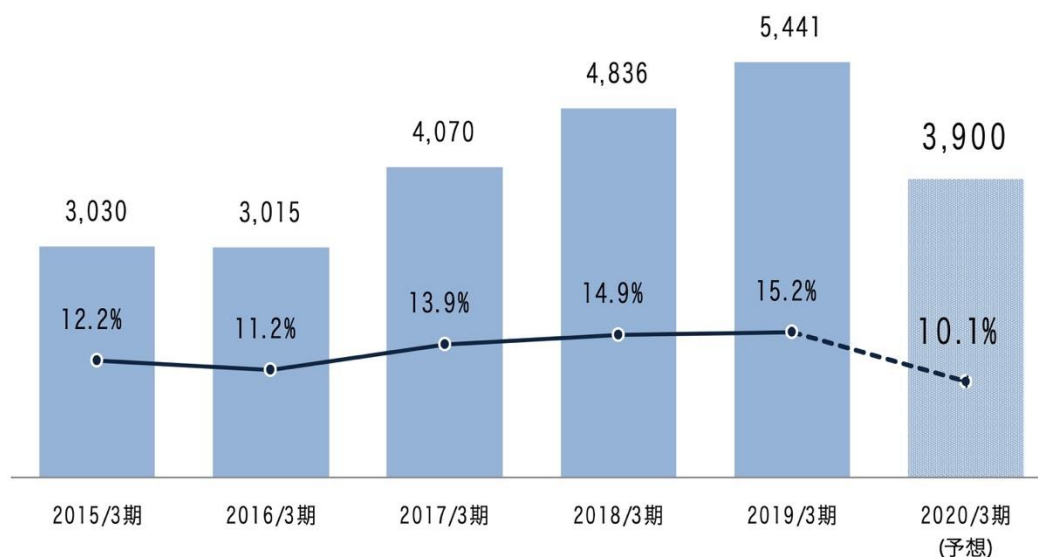
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2020年3月期 連結業績予想の概要



■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円) --●-- ROE



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

25

業績予想、これは純利益になります。最終的には60億という経常利益になりますので、純利益的には39億ほどを見込んでいまして、例のROEですけれども、期初の予定ですと9.1%というところがROEだったんですけれども、今回の上方修正でとりあえず2桁に乗せた、これだったら一橋大学の伊藤先生も許してくれるかなと感じています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2020年3月期 連結業績予想



(百万円)	2020/3期				5月発表予想比増減	
	5月発表予想	構成比	今回修正予想	構成比	金額	率
売上高	36,000	100.0%	36,500	100.0%	500	1.4%
溶射加工 (単体)	26,658	74.1%	27,158	74.4%	500	1.9%
半導体・FPD	13,500	37.5%	13,700	37.5%	200	1.5%
産業機械	3,650	10.1%	3,950	10.8%	300	8.2%
鉄鋼	4,047	11.2%	4,047	11.1%	—	—
その他	5,459	15.3%	5,459	15.0%	—	—
その他表面処理加工	2,322	6.4%	2,322	6.4%	—	—
国内子会社	2,553	7.1%	2,553	7.0%	—	—
海外子会社	4,465	12.4%	4,465	12.2%	—	—
営業利益	5,200	14.4%	5,800	15.9%	600	11.5%
経常利益	5,500	15.3%	6,000	16.4%	500	9.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,520	9.8%	3,900	10.7%	380	10.8%

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

26

次は、連結予想です。先ほど言いましたように、溶射加工で5億ほど売上高をプラスにしています。その内訳は、半導体・FPDが2億ほど、産業機械が3億ほどで、もともと13億ほど期初の予定よりも売上の的には上がったんですけども、下期はかなり無理をしているところも若干ありまして、そういうことを調整しながら、最終的に5億という線にしました。ただ、足元を半導体がどう移っていくかでころっと変わってきますので、そのへんは注意深く見ながら、また何かしらの更改をしていかないといけないかなというところもあります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2020年3月期 連結業績予想



(百万円)	2019/3期		2020/3期		前期実績比増減	
	実績	構成比	今回修正予想	構成比	金額	率
売上高	39,558	100.0%	36,500	100.0%	△ 3,058	-7.7%
溶射加工 (単体)	30,400	76.8%	27,158	74.4%	△ 3,242	-10.7%
半導体・FPD	17,134	43.3%	13,700	37.5%	△ 3,434	-20.0%
産業機械	4,154	10.5%	3,950	10.8%	△ 203	-4.9%
鉄鋼	3,662	9.3%	4,047	11.1%	385	10.5%
その他	5,449	13.7%	5,459	15.0%	9	0.2%
その他表面処理加工	2,204	5.6%	2,322	6.4%	117	5.3%
国内子会社	2,493	6.3%	2,553	7.0%	60	2.4%
海外子会社	4,460	11.3%	4,465	12.2%	5	0.1%
営業利益	7,741	19.6%	5,800	15.9%	△ 1,941	-25.1%
経常利益	8,076	20.4%	6,000	16.4%	△ 2,076	-25.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,441	13.8%	3,900	10.7%	△ 1,541	-28.3%

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

27

修正後の連結業績です。いかんせん、前期が非常にいい数字だったものですから、特に半導体は170億を超えるような数値を上げていまして。先ほども言いましたように、私どもの業績の43%は半導体・FPDが占めるという非常に高い数字だったんですけれども、今回は137億まで落ちてきましたので37.5%になっていますが、それが前年同期比マイナス20%になっていると。全体的に経常利益が前年同期比マイナス30数%だったのが25%まで縮小しているというのが事実ですけれども、この縮小幅をもっと増やしていくとか、昨年に近づけていかないといけないのですが、そこはやはり、半導体が今スポット受注などが若干動き出しているんで、期待するところではあります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2020年3月期 第2四半期 進捗率



(百万円)	2020/3期 実績	2Q 構成比	2020/3期 今回修正予想	通期 構成比	2Q実績 進捗率
売上高	18,794	100.0%	36,500	100.0%	51.5%
溶射加工 (単体)	14,097	75.0%	27,158	74.4%	51.9%
半導体・FPD	6,764	36.0%	13,700	37.5%	49.4%
産業機械	2,474	13.2%	3,950	10.8%	62.6%
鉄鋼	1,972	10.5%	4,047	11.1%	48.7%
その他	2,886	15.3%	5,459	15.0%	52.9%
その他表面処理加工	1,161	6.2%	2,322	6.4%	50.0%
国内子会社	1,197	6.4%	2,553	7.0%	46.9%
海外子会社	2,337	12.4%	4,465	12.2%	52.3%
営業利益	3,348	17.8%	5,800	15.9%	57.7%
経常利益	3,403	18.1%	6,000	16.4%	56.7%
親会社株主に帰属する 当期 (四半期) 純利益	2,148	11.4%	3,900	10.7%	55.1%

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

28

進捗率ですけれども、上期での進捗率が全体に対して 51.5%。これが売上高の進捗率です。ほぼ順調に来ているかなと。利益も 56.7%で、これがそのまま下期になってきますとこの部分がもちろんプラスになってくるということになるんですけども、進捗率としては大体予定どおりに来ています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2020年3月期の概要



事業環境

- 半導体分野は調整局面
- 表面改質ニーズの高度化
- 溶射技術の認知度はまだまだ

【今期のテーマ】

★半導体・FPD分野：

市場回復に備えた微細化への技術的対応
& 生産能力の増強

★収益源の多角化

新市場の開拓と既存市場の適用拡大

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

29

今の状況を踏まえますと、やはり事業環境としては半導体の分野は調整局面かなと。世の中、そろそろ半導体が動き出したというところがいろいろ言われているんですけども、私どもはまだそこまで感じていなくて、確かに半導体は、特にエッチャーの世界ですとロジックとメモリに分けられるんですけども、ロジックの部分に関しては若干スポットで動き出してきたかなと。ただ、メモリに関してはまだまだかなというところもございまして、調整局面という言葉で下期は期初の予算と同じような形で上げています。

ただ、いろいろ半導体も含めてですけれども、表面改質のニーズは非常に高度化してしまっていて、例えば半導体ですと線幅が非常に小さくなって、10ナノや7ナノや5ナノというところがだんだん厳しくなってきます。それだけパーティクルの大きさも制限されてきます。そういう世界になってくるものですから、それに対応する皮膜作りをしていかないといけないということで、高度化しています。例えば鉄屋さんですと電磁鋼板を作るのによりシビアな管理をされると。その管理をするためにロールはどういう表面でないといけないか、ということも含めて高度化している。

それからもう一つは、溶射技術の認知度というのが、めっきや溶接、熱処理ほど一般的ではなくて、図面に何か表面改質をするときに溶射という言葉が出るかどうかというところですけども、

サポート

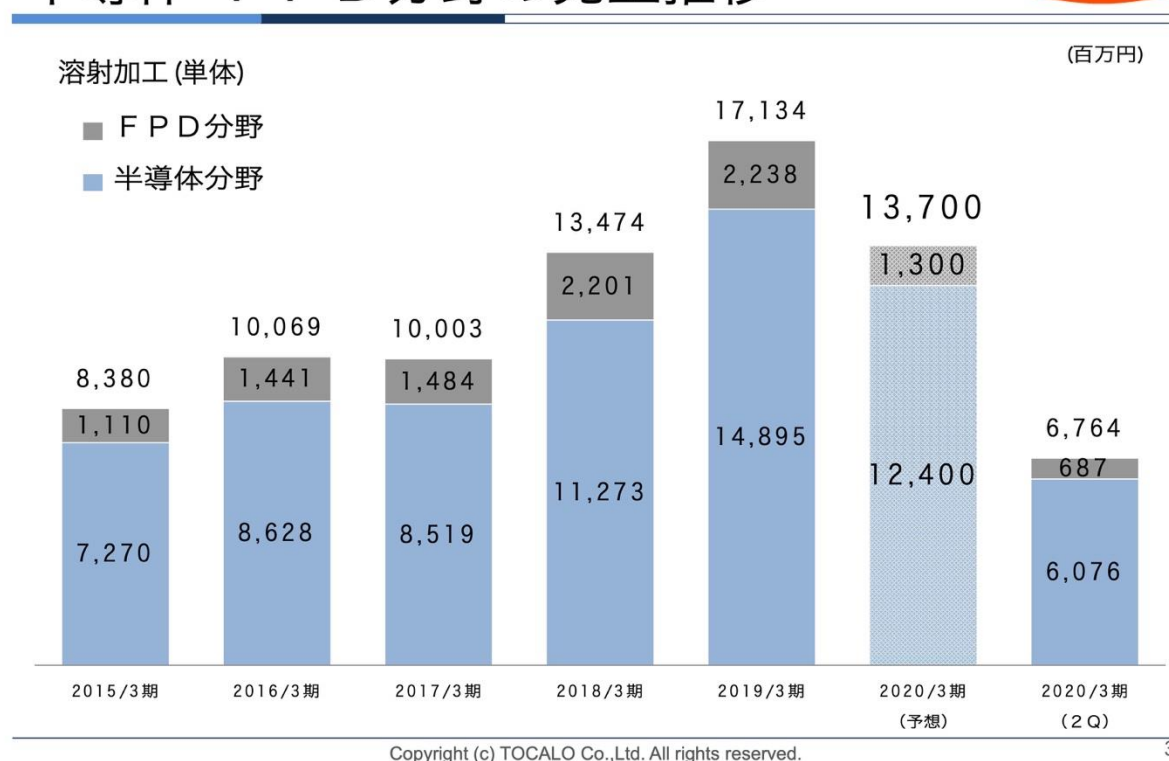
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



そういう意味ではまだ認知度が低いので、私ども溶射のトップメーカーとしては溶射というものの認知度を上げていかないといけないと。そういう事業環境です。

ということで、今期のテーマは期初に挙げさせていただいたんですけども、特に半導体に関しては微細化技術に対してどう対応していくか。やはり半導体、液晶に特化されるような、売上の4割近くを依存しているんですけども、その部分をどう伸ばしていくか、どうキープしていくかということが非常に大切ですから、その部分。あとは、立ち上がったときに一気に来るものですから、そういう意味で量産化に対する増強は常におこなわないといけないということです。それから、半導体・液晶に限らず、収益の多角化を図っていくところがポイントでございます。

半導体・FPD分野の売上推移



30

何度も説明したかもしれませんが、半導体・FPDの分野が私どもは4割近くあり、特に昨年の3月期ですと170億を超えるような数値でした。上がFPDで青い部分が半導体ですが、今期は137億ぐらいまで動いていまして、前々期ぐらいのところに落ち着くかなと。ただ、こういうのは動き出したら早いものですから、一気に来る世界もあるので、ここの部分があとどうプラスアルファされるかなというところでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

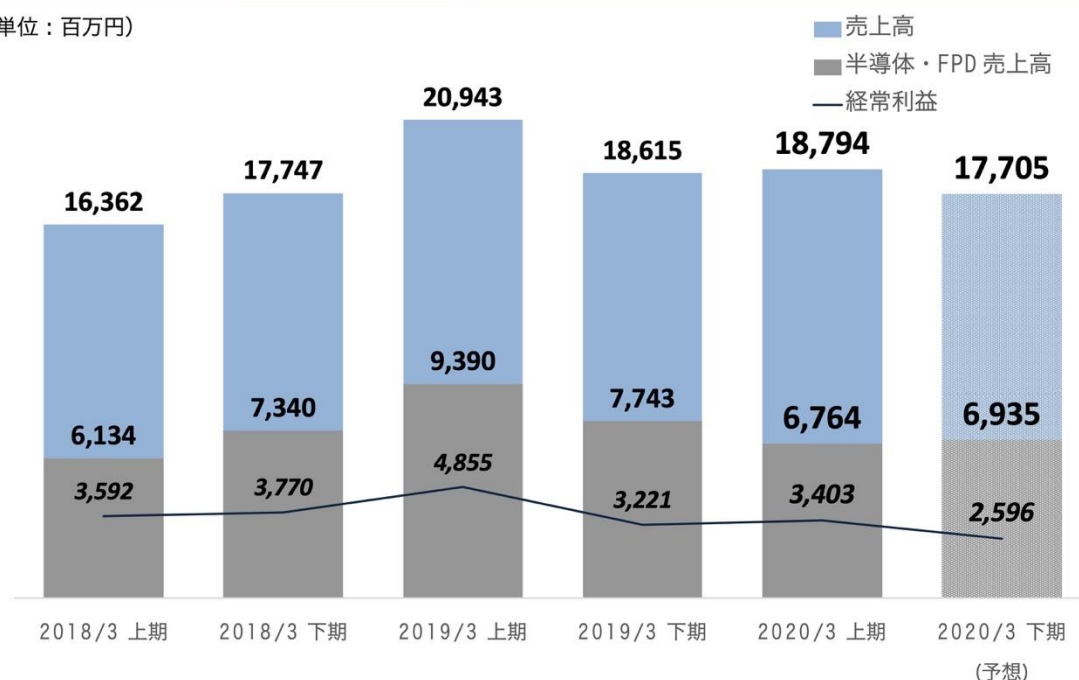


半導体の立ち上がりを期待しつつ、ほかの分野のものをどう仕掛けていくか、売上を上げていくかというところがございます。先ほどから何回も言っていますように、一番上は子会社ですが、子会社を含めて少しずつ、2%から3%、4%あたりの伸びを示していきまして、そういう意味では着実にそういうところは増やしていっています。ただ、ここをベースに半導体の立ち上がりのときに対応できるような形にすると、業績的に一気に上がるのではないかと考えています。

売上高・経常利益の半期ベース推移



(単位：百万円)



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

32

これも半期ごとのグラフを表していますが、昨年の上期が一番ピークを迎えていまして、半導体、灰色の部分は半期で93億まで行きました。下期はかなり落ちてまして、77億ぐらいまで来ました。今期の上期がもうちょっと落ちたということで、あとこの部分は予測になるんですけども、全体的には69億、70億弱ぐらいのところで収まるかなと見込んでいます。このへんがなかなか読みづらいところではあります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



設備投資計画について



2020年3月期

設備投資予定額 36億円

(期初計画から変更なし)

トーカロ 26億円

・次世代コーティング設備の導入

国内子会社

・生産能力増強 5億円

海外子会社

・半導体・FPD分野を中心に 5億円

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

33

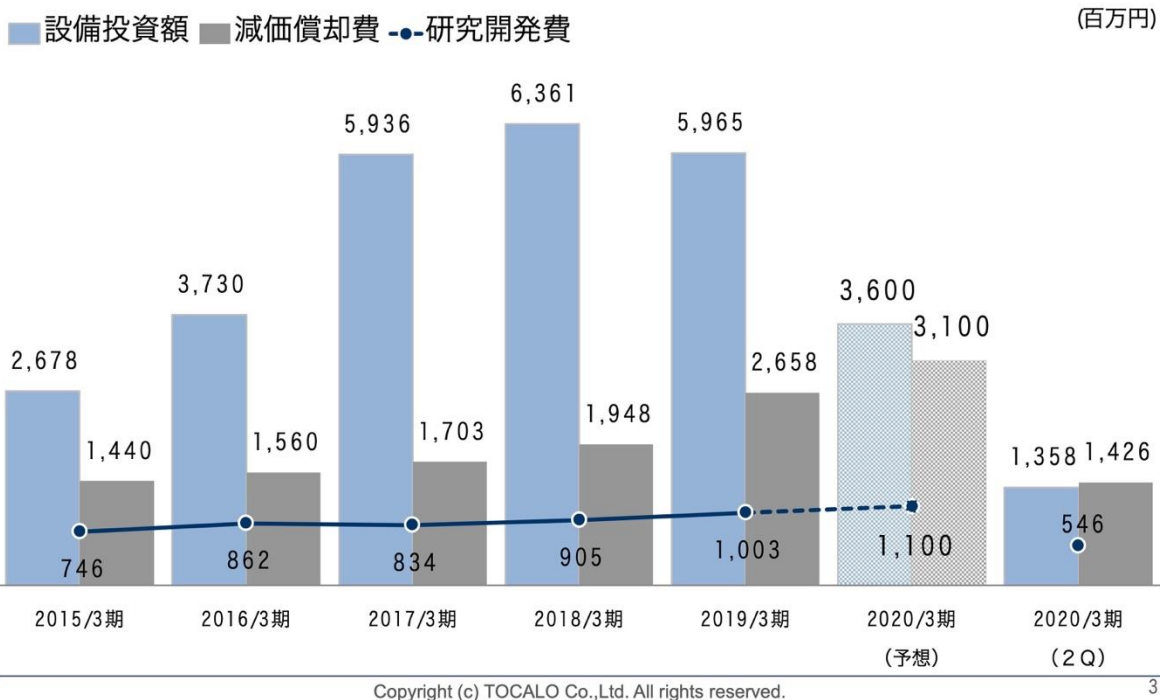
設備投資につきましては、今まで3年間で59億、63億、59億ぐらいの数値をやってきましたので、今期は半導体が落ちるということでかなり絞っています。36億円ぐらい。状況によってはもう少し絞るし、ただ、半導体が上がったときにはもう少し増やすというバッファを見ています。特にトーカロ本体にとっては、半導体以外のところのコーティング設備を増強しようということでお金を使います。海外についてはメンテナンスの部分ですので、どうしても半導体・FPDが中心になるというところです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



設備投資額・減価償却費・研究開発費



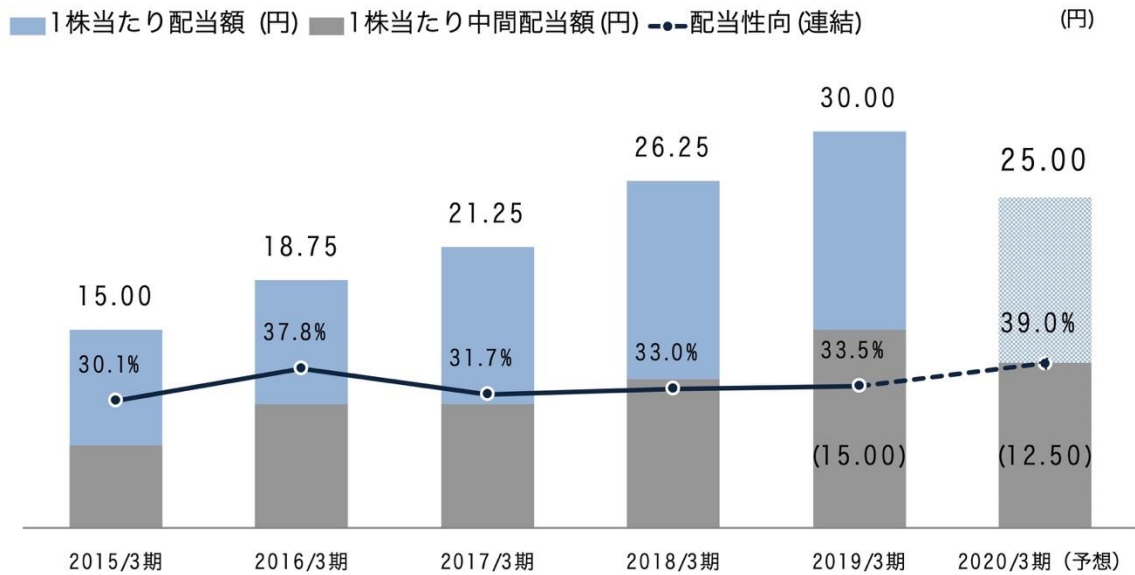
それから、設備投資は先ほども言いましたように、この3年間で180億を使ったので、今期は36億にしました。ただ、減価償却がこの部分がかかってきますので31億まで来るかなというところでは。今使っているのがこのへんのところで、研究開発費については売上高の3%基準ぐらいで大体やっています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



1株当たり配当額・配当性向の推移



(注) 2015/3期～2017/3期の1株当たり配当額は、株式分割を考慮した数値に換算しております。

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

35

配当ですけれども、25円というのを公表してまして。半期で12円50銭をお支払いして、利益がちょっと上がったものですから、配当性向は39%ぐらいになってきたかなというところで、年間25円を想定しています。

サポート

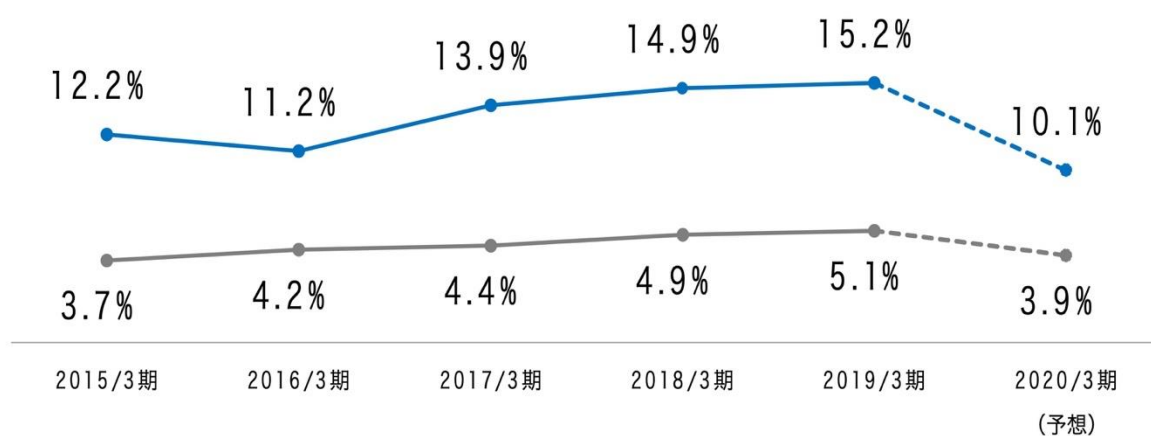
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ROE・純資産配当率の推移



● ROE ● 純資産配当率



ROE (自己資本利益率) = 当期純利益 / 期中平均自己資本

純資産配当率 = 1株当たり配当金 / 期中平均1株当たり純資産 (= ROE × 配当性向)

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

36

ROE は先ほど説明しましたように、昨年は目標の 15%を超えたんですけども、今期は危ない、1桁になりそうだったんですけども、まあまあ2桁に来るかなというところです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



トーカロの成長戦略



新商品の開発 及び 新市場の創出

ターゲット市場の5本柱

1. 半導体・FPD
2. 新素材
高機能鉄鋼材料、
高機能フィルム、紙／不織布 etc.
3. エネルギー・環境
4. 輸送機
高速鉄道、航空機 etc.
5. 医療

継続成長のためのアクション

- ①収益源の多角化
 - ・ ターゲット市場分野での
商品開発と既存市場の適用拡大
- ②半導体・FPD 分野
 - ・ 市場回復に備えた生産能力の増強
 - ・ 次世代皮膜の技術開発
- ③グローバルな展開
 - ・ メンテナンスビジネスの強化
 - ・ 現地化（子会社、関連会社）と
技術供与（ライセンスビジネス）

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

38

最後になりますけれども、持続的成長に向けてということで、この図は何回も出すんですけども、私どもの成長戦略というのは、トップメーカーということもありまして、新商品をいかに開発していくかということと、新しい市場をどう作り出していくかというところにかかっているかと思っています。特に新商品開発については技術研究を中心に、特に先ほども言いましたけれども、溶射の認知度を上げつつ、新しいところで使っていただいて評価を得ると。ご存じの方には溶射の良さを認識されて使っていただけていますが、それが全体的に広がっていないところがありますので、そのへんをやりたいということです。

ターゲットの市場としては、もちろんメインであります半導体・FPD、日本が最も得意とするところの新素材、亜鉛めっき鋼板を中心とするハイテンとか高機能の鉄鋼材料、それからセパレーターや保護フィルム、偏光フィルムといった光学フィルム系の機能フィルム。また、家庭紙、ティッシュペーパーとか不織布といった紙パの関係ですね。それから、エネルギーの関係。そして、環境。特にエネルギーは、水力、バイオマス、そういう再生エネルギー系統もかなりやっているんですけども、やはりまだ石炭火力発電というのが日本は3割近くあり、そのメンテナンスは絶対にしなくてはいけないこともありまして、その需要がかなりある。それから、CO₂とかSO₂とかNO_x、

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SO_x関係をいかに取り除くかということで、環境問題に対する設備。それから、新幹線のベアリングや航空機の関係もやっています。

将来的には医療も。本社が医療産業特区になっていまして、いろいろロボットとかバイオとかそういうものも含めて医療関係の地区になっていまして、研究を進める。たぶん10年、20年とかかるでしょうけれども、そういうところも進めています。あとは、そのためのアクションというのは、収益源の多様化というところで、半導体を伸ばしつつ、ほかのところも広がっていこうと、ちょっと欲張った考えですけども、そういうところ。それから、もちろん半導体・FPDがここまで浸透していますので、配線が微細化されようとどこまで行けるのかという追求をしてみたいと思っています。

特に半導体は、今から5GとかIoTとか自動運転とかセンサーとか、そういうところで間違いなく莫大な需要があるということが分かっていますので、それに対する製造装置、部品に対する溶射を極めていきたいと思っています。

それから、グローバルの展開ですけども、これについてはどちらかというと日本のメーカーさんのサポートをすることによって新しいものを作り上げて、それが世界各国に展開されますので、それに対してやっていこうという試みです。私どもから積極的に海外に出て、どう売りまくるのかというところまでは考えていません。以上で上期の決算発表を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

質疑応答

司会：ご説明ありがとうございました。それでは、この後は質疑応答の時間でございます。質問のある方は挙手をしてご発言をいただきたいと思います。発言に際しましてはマイクをお持ちしますので、マイクでのご発言をどうぞよろしくお願い申し上げます。なお、この決算説明会は質疑応答部分も含めまして全文を書き起こして公開の予定でございます。したがって、質問の際に会社名・氏名を名乗られますとそのまま公開となりますので、よろしくお願いいたします。もし匿名を希望される場合は、質問の際、氏名を名乗らないようにひとつよろしくお願い申し上げます。それでは、質問のある方はいかがでしょうか。

質問者：今日はわざわざお越しいただきありがとうございます。リコーティングのところで教えていただきたいんですけども、今は例えば製造装置メーカーさんからの溶射の請負というお仕事ということになっているんですけども、今後、例えば半導体工場の現地で大きな工場、東芝さんの工場とかいろいろあるかと思うんですけども、そこの近くでのリコーティングの仕事を直接的に強化していくという方向性はないのでしょうか。韓国などでもリコーティングのところで現地の人にとられちゃっているようなことがあるかと思うんですけども、もったいない気がするので、そのあたりを教えていただきたいです。それが1点目です。

2点目は、今後、7ナノとかこういったより一層高度化された溶射になってくるときに、やはり溶射の参入障壁というのもあるのか、それはブラックボックス化されることはできるのか、あるいは特許などでの参入障壁が可能なのか、そのあたりは。例えば、エッチャーで7ナノという新しい、もう一段高い技術になるかと思うんですけども、その場合の参入障壁はどういうことになるのか。その場合はもう真似ができない形で、リコーティングのところで排除できるのかという可能性についてはどうですか。

三船：ありがとうございます。まず1点目のリコートの話ですけども、最初私どもも新商品に使われているものがある程度の7,000時間とか1万時間ということで返ってくると思っていたんですけど、なかなか返ってこなくて。特に、韓国で申しますと、私どもはとりあえず特許を持っているんですけども、韓国では通らなかったんですね。そういうこともありまして、やはり同じものを云々するというところで国策もございまして、なかなか難しいかなというところ。台湾では一部それはやっています。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

ただ、これが非常に難しいのは、製造装置メーカーさんと一緒に共同開発してやっていますので、だからいいところだけ、リコートだけうちがやるというわけにはなかなかいかず、やはり製造メーカーさんの了解というか戦略もありますので、それを無視して勝手に自分のところだけリコートをするという世界にはなかなかならず、そういうのは事業をわきまえた形でやっているところが一つ。

それからもう一つの高度化していったって、7ナノ、5ナノ、もちろん技術開発をやっていくんですけども、たぶんそれはそれで製造装置に使われていくのしょうけれども、それがリコートのときに差別化できるかという、まあ、たぶん数カ月の問題だと思います。そういう業界だと思います。

質問者：どうもありがとうございます。これで最後ですけれども、半導体のロジックでのスポット受注は少し出てきているということですが、一般的に言って、そうするとほとんど確実にメモリが後からついてくることになるかと思うんですけれども、タイムラグはどのくらいあるものですか。

三船：私どもとしましては何ともよう言いません。反対に教えてほしいぐらいなんですけど。そのつもりで設備導入とか整備していきますので、それが分かればありがたいなと思いながら待っている次第です。

質問者：ありがとうございました。

司会：ありがとうございます。

質問者：単体の溶射加工のところで2点教えていただきたいのですが、1点目が半導体のところです。御社の今回の修正された業績計画で行くと、下期の半導体はあまり上期から戻らないような数字になっているんですけれども、御社の主要顧客でいくと半導体の新しい装置のところが下期はそれなりには戻るような計画になっていて、要は前期の上期が御社と同じようにピークになっていて、その後下期は落ちて、今期の上期も落ちて、下期には前期の通期平均ぐらいまで戻るような計画に、お客のほうはなっているんですけれども、御社のほうはそうはなっていないんですね。具体的に何か見えている範囲で、あちらが戻って御社が戻らない、回復の度合いがあまり以前ほどの仕事がとれないとか、溶射の範囲が狭まっているとか、何か見えているところで仕事量が減るような要因があるかどうかというところを一つ目として教えてください。

三船：そうですね、ただ、時間差があるというのが一つなんですよ。これは間違いなくあります。数カ月あるというのは間違い。それで、お客さんのほうが上げられたということですが、

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ただ、私どもはすべてをやっているわけではなくて、特にエッチャーの部分ですので、その部分がどうかというところだと思うんですよね。そういう意味では、まだたぶんメインはメモリ系ですので、その部分はそんなに上げられていないのではないかと考えていたんですけど。すみません、詳しいところまでは。

質問者：分かりました。そうしたら、メモリが回復する局面で御社が何かついていけない要因、例えば今まで入れていたようなところで溶射加工の仕事がなくなるとか、そういう話は特にないですか。

三船：いやいや、恐怖はいつも感じています。もうそれだけは、その恐怖はいろいろなところが溶射だけではなくて違う世界もいろいろ出てきていますので、素材も含めてですね。

質問者：それはずっと以前からおっしゃっている話ですね。

三船：それはずっとあって。ただ、今の段階でそれが変わるかなというところまではちょっとまだ認識はありませんけど、その恐怖感だけは、危機感だけはいつも持っています。

質問者：はい、分かりました。それで、二つ目が産業機械のところですけども、四半期の売上を見てみると、第1クォーターの売上がかなり高い水準になっていて、たぶん過去にないような数字の出方を第1クォーターはしていたと思うんですけども、何か新しいアプリケーションのようなところが出てきているのか、スポットなのか、継続性が今後あるのかというところを教えてください。

三船：若干の継続性もありつつ、スポット的なところというか、非常に難しいですけども、一つは石炭火力なんですね。石炭火力というのは、今石炭火力で問題を起こすと、言っているのかな、石炭火力は今世の中がこういう状況ですので、すぐにストップがかかるんですね。だから、問題だけは絶対に起こせないということもあって、それなりのメンテナンスには力を入れている。その部分でメンテナンスをしようと思ったときに、溶射は必需品になってくるんですよ。その分が今入ってきたかなというところですよ。

質問者：特に第1クォーターに集中したということですか。

三船：工事的に大体いつも年度予算が始まるころが多いというのはありますね。大体春先にかけてというところ。

質問者：例えば4年に1度とかそういうような。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

三船：あちこちの部分は4年に1度とかそういう形になります。けども、そういうのがいっぱいあるので、均等化されているところは若干あるかと思います。定修は大体4年に1度というのが多いですね。

質問者：それが今期多かったという感じではないですか。

三船：まあ、若干多かったかもしれませんね。

質問者：分かりました。ありがとうございます。

三船：ちょっと大型だったということもあります。

司会：ありがとうございました。ほかによろしゅうございますか。では、こちら様で最後の質問ということにさせていただきますので、よろしくお願いします。

質問者：すみません、1点だけです。最後のほうにちらっとだけ触れていましたけれども、半導体がよくも悪くも上がったたり下がったり、注目が大きいんですが、以前新分野としてスタートされていた名古屋でされている航空宇宙のところですか、明石か播磨かごちゃっとなってしまったのですが、大型案件ですね。橋梁だったり風力発電といったところは、水面下で進んでいるものなのか、ちょっと半導体にエネルギーがみんな行ってしまってお留守になっているのか、どういうニュアンスで足元はどうなっているのかお教えいただけますでしょうか。

三船：まず、名古屋地区の航空機の関係ですけれども、それなりに業績はとったんですけど、例のボーイングの事故の関係もちょっとありまして足踏みまではしていませんけれども、それなりには上がってきていますが、予定よりはちょっと上がらなかったかなというところなんです。でも、航空機の関係はそれだけではありませんので、いろいろなところでありますので、明石もNADCAPをとりながら進めていっているところです。ただ、簡単にはなかなか動きませんので、航空局の関係とかも、一度決まればずっと決まる、そのまま流れるんですけど、そういうところも一つあります。

それから、播磨の工場の大型物件に関しましては、先ほどのご質問で前半スポットというか、ちょっと大きくあったというのも一つ絡んでいまして、やはりエネルギーの関係で大型のやつ施工をしました。水面下とは言いませんけれども、かなり動きは出しています。

司会：よろしいですか。それでは、以上をもちまして本日の決算説明会は終了でございます。皆様、お疲れ様でございました。ありがとうございました。

三船：どうもありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



司会：お帰りの際はお忘れ物のないようにお気をつけてお帰りくださいませ。よろしくお願いします。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com